



日本糖尿病・妊娠学会

一般社団法人

日本糖尿病・妊娠学会 ニュースレター

The Japanese Society of Diabetes and Pregnancy News Letter

2018年11月発行 Vol.20 No.2

第39号

第34回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会の見どころ

テーマ：糖尿病と妊娠－この重要な概念を如何に次世代に伝えるか

日時：平成30年11月23日(金)・24日(土) 会場：パシフィコ横浜 アネックスホール



第34回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会会長

守屋 達美

北里大学健康管理センター
センター長

第34回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会を、2018年11月23日(金)、24日(土)の2日間にわたり、横浜「みなとみらい」のパシフィコ横浜アネックスにて開催致します。現在、本学術集会のプログラムの構成等がほぼ整った段階です。一般演題のエントリーを含め、本学会会員の皆様のご協力・ご支援に心より感謝申し上げます。

糖尿病性慢性合併症、特に糖尿病性腎症(腎症)を有する妊婦は依然として診療の場に現れてきます。このような妊婦のケアも重要な問題と考え、第1日目の海外招聘講演(スポンサードセミナー)は、腎症と妊娠のエキスパートであるCopenhagen大学のElizabeth Mathiesen教授に「Diabetic nephropathy - the impact of antihypertensive treatment on pregnancy outcome」というタイトルでお話いただきます。また、腎症合併妊娠に関するシンポジウムは、2006年の当学会年次学術集会から行われていません。したがって、上記の海外招聘講演の前に腎合併症と耐糖能異常合併妊娠に関するシンポジウムを企画しました。

一方、「糖尿病と妊娠」の分野では、子宮内胎児環境の重要性とともに、妊娠前女性の教育から妊娠中・分娩後の管理、さらには将来の児の予後だけではなく児の教育まで、長期間に渡る連続性を持ったケアに重点が置かれています。すなわち、医療者側としては、「常に継続

してしていく姿勢」を持つことが必要と考えます。この「常に継続してしていく姿勢」は、分娩後に一見正常耐糖能になったGDMの経過観察をきちんと行わなくてはならないことにも繋がります。GDMのフォローアップ体勢の有機的な構築に関して、昨年の年次集会に引き続きシンポジウムを2日目に行います。各施設の試みを含め、皆さんとともにディスカッションしたいと考えています。

2年間該当者がいなかった研究奨励賞「大森賞」は、本年2名の方に授与されることになりました。2題とも非常に質の高い研究であり、その授与式および受賞記念講演を第1日目に行います。今後ともたくさんの方々が高質の研究を行い、「大森賞」に応募されることを期待します。

本学会の全体のテーマは、「糖尿病と妊娠－この重要な概念を如何に次世代に伝えるか」です。この分野の次世代への継承・啓発・教育は非常に重要と考えています。その観点から、2日目の午前中には、教育講演を5題行います。それぞれの分野におけるエキスパートによる講演ですので、ぜひさまざまな職種のご参加をお願いします。

糖尿病・妊娠学会の年次学術集会を横浜で開催するのは初めてです。学会場のパシフィコ横浜は、「みなとみらい」の海沿いに位置し、横浜ベイブリッジや横浜港などの絶好の風景を楽しむことができます。11月23日(金)は祭日であり、3連休の方もいらっしゃると思います。みなとみらいから少し足を伸ばして、元町・中華街などをお楽しみいただいても良いと思います(但し学会期間中は、学会に参加をお願いします)。

「次世代への継承」という観点からも、本学会の会員の皆様はもちろんのこと、他のさまざまな分野の方々もお誘いいただき、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

● 発行人 理事長 平松祐司

● 発行 一般社団法人 日本糖尿病・妊娠学会 www.dm-net.co.jp/jsdp/ 〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル(株)創新社内
TEL.03(5521)2881 FAX.03(5521)2883

編集制作：(有)知人社 ロゴマークデザイン：杉山光章

プログラム

■海外招聘講演（スポンサードセミナー）

Diabetic nephropathy - the impact of antihypertensive treatment on pregnancy outcome

演者：Elizabeth Mathiesen

(Centre for pregnant women with diabetes, Rigshospitalet, University of Copenhagen)

■教育講演

1. 耐糖能異常合併妊娠の病態および GDM と糖尿病合併妊娠の相違点

演者：清水一紀（心臓病センター榊原病院 糖尿病内科）

2. DOHaD の視点からみた生活習慣病

演者：杉山 隆（愛媛大学医学部 産科婦人科学）

3. 論文の書き方・臨床研究のルールについて

演者：川崎英二（新古賀病院 糖尿病センター）

4. 糖尿病合併妊娠における CSII 療法および SAP 療法の実際

演者：楠 宜樹（兵庫医科大学 内科学 糖尿病・内分泌・代謝科）

5. 明日からの糖代謝異常妊婦のケアを考えよう

演者：青木美智子（日本赤十字社成田赤十字病院・千葉大学大学院 看護学研究科）

■シンポジウム 1

「腎障害を伴う糖尿病患者の妊娠」

シンポジスト：川村和子、花井 豪、安孫子亜津子、森實真由美、今井 憲

■シンポジウム 2

「GDM のフォローアップ」

シンポジスト：川崎麻紀、安日一郎、菊池 透、上野美明、源馬理恵子

■調査研究報告

DREAMBee Study (Diabetes and Pregnancy Outcome for Mother and Baby Study) 進捗状況

演者：杉山 隆

■大森賞授与式・受賞記念講演

演者：河原田律子、釘島ゆかり

■一般演題：口演、ポスター

第34回
日本糖尿病・妊娠学会
年次学術集会
The Japanese Society of
Diabetes and Pregnancy
糖尿病と妊娠
—この重要な機会を如何に次世代に伝えるか—
11/23・24
2018 金 土
パシフィコ横浜 アネックスホール
神奈川県横浜市中区みなとみらい4-1
会長 守屋 達美
北里大学健康増進センター センター長

海外招聘講演
「Diabetic nephropathy - the impact of antihypertensive treatment on pregnancy outcome」
Prof. Elizabeth R Mathiesen
Center for pregnant women with diabetes, Rigshospitalet, University of Copenhagen, Denmark

教育講演
1. 糖尿病合併妊娠における CSII 療法および SAP 療法の実際
2. 耐糖能異常合併妊娠の病態および GDM と糖尿病合併妊娠の相違点
3. 論文の書き方・臨床研究のルールについて
4. 明日からの糖代謝異常妊婦のケアを考えよう
5. DOHaD の視点からみた生活習慣病

シンポジウム 1 「腎障害を伴う糖尿病患者の妊娠」
1. 腎疾患と妊娠「腎疾患患者の妊娠 診療ガイドライン 2017」の要点について
2. 糖尿病性腎症の早期治療 ～よりよい妊娠・出産を目指して～
3. 腎臓合併妊娠の管理 ～内科の立場から～
4. 腎臓合併妊娠の管理-産科側より
5. 腎臓合併妊娠母体より出生した児の臨床的特徴と課題

シンポジウム 2 「GDM のフォローアップ」
1. 2型糖尿病発症予防のための 妊娠糖尿病妊婦への非薬物的介入の取り組み
2. 国立病院機構静岡医療センター共同研究「日本人妊婦糖尿病既往女性の産後5年の糖尿病発症の実態と発症関連リスク因子および予防的因子の解明」
3. GDM の母親から生まれた子どものフォローアップ研究
4. 赤ちゃんが教えてくれた糖尿病予備群～母子事業を通じた保健の取り組み～
5. 浜松市における妊娠糖尿病管理体制の樹立

主催事務局 〒252-0373 神奈川県横浜市南区北郷1-15-1 北里大学健康増進センター
連絡事務局 〒252-0143 神奈川県横浜市緑区緑8-4-12-4F 株式会社コンベンション・ラボ内 TEL: 042-707-7275 FAX: 042-707-7275 E-mail: jsdp34@conventionlab.net

第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会のご案内

テーマ：妊娠と糖尿病—母と子を、そして世代を超えて、糖尿病から守るために

日時：2019年11月22日(金)・23日(土)

会場：浅草ビューホテル(東京都台東区)



第35回日本糖尿病・
妊娠学会年次学術集会長

杉原 茂孝

東京女子医科大学
東医療センター 小児科教授

このたび、2019年11月22日(金)・23日(土)に開催されます第35回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会の集会長を務めさせていただくこととなりました。その準備を鋭意進めさせていただいております。会場は、東京でも下町情緒あふれる浅草の浅草ビューホテルです。浅草寺雷門、仲見世通りや東京スカイツリーも近接しておりますので、ぜひこちらも訪れていただきたいと思います。

主な学会のテーマとしては、糖尿病合併妊娠のインスリン治療の進歩、妊娠糖尿病の診断・治療・予後、糖尿病母体児の治療・予後が挙げられます。さらに近年、DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) の概念が広がり、「妊婦の低栄養、過栄養(肥満)、高血糖、糖尿病などが、次世代の小児期からの肥満、メタボリックシンドローム、2型糖尿病へとつながり、この子どもたちが成人して妊娠出産すれば、さらに次の世代へとこれらの病態が引き継がれていく」ことが明らかになってきました。私は小児科医として仕事をしておりますので、特に DOHaD についてのシンポジウムを組みたいと考えています。そこで今回の学術集会のテーマは、「妊娠と糖尿病—母と子を、そして世代を超えて、糖尿病から守るために」といたしました。

日本糖尿病・妊娠学会は、内科、産婦人科、小児科の医師を始め、助産師、看護師、保健師、栄養士など多分

野の人々が集まり、糖尿病・妊娠のさまざまな問題について議論し、活動する学際的な学会です。

短い限られた会期の中で多くの制約がありますが、多くのご意見を集約して、内容の充実した学術集会にしたいと思っております。多くの学会員の方が、多くの演題を発表していただき、情報交換を行い、実りの多い学術集会になるよう望んでおります。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

第35回
日本糖尿病・妊娠学会
年次学術集会

2019年
11月22日(金)・23日(土)

会長 杉原 茂孝
東京女子医科大学東医療センター 小児科

会場 浅草ビューホテル
〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1
TEL: 03-3847-1111

国内関連学会開催日程

第22回日本病態栄養学会年次学術集会

テーマ：横浜から未来を考える

2019年1月11日(金)～13日(日)

会長：寺内 康夫
(横浜市立大学大学院医学研究科分子内分・糖尿病内科学教授)

会場：パシフィコ横浜

公式ホームページ：www.eiyou.or.jp/gakujutsu

第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

2019年3月15日(金)～16日(土)

会長：小川 佳宏(九州大学大学院医学研究院病態制御内科学教授)

会場：九州大学病院百年講堂

公式ホームページ：<http://jsedo.jp/2019/03/33.php>

2つの取り組み



一般社団法人 日本糖尿病・
妊娠学会 理事長

平松 祐司

岡山大学名誉教授
岡山市立市民病院顧問

◆ IADPSG2020

IADPSG 2020 学会を 2020 年 11 月 13 日（金）～ 15 日（日）の 3 日間にわたり、京都駅前のメルパルク京都で開催させていただきます。このうち、11 月 14、15 日は第 36 回日本糖尿病・妊娠学会（杉山 隆会長：愛媛大学）と共同開催になります。

今年の学会時に、第 2 回組織委員会を開催し、より詳細なプログラムを決定していきますが、全世界からこの分野のエキスパートを招請し、表に示したような数の演題を準備し、実りある学会にしていきたいと考えております。日本からの多くの発表を期待していますので、データをまとめ、このような発表をしたいと、どんどん手をあげていただきたいと思います。同時に、日本ならではの「おもてなし」も入れ、参加者全員に楽しんでいただける学会にすべく準備を進めていく予定です。

IADPSG2020 演題数

Sessions		
Lectures: Opening & Closing	各 25 分	6～7 題
Keynote lectures	各 25 分	3 題
Workshop	各 20 分	4～5 題
Hot topics	各 20 分	17 題
Clinical update	各 25 分	
Oral presentation	各 15 分	10 題
Poster presentation		(150 分)

IADPSG2020 に関する情報は、順次、本学会のホームページに掲載していきますのでご覧ください。

◆ 妊婦の糖代謝異常 診断・管理マニュアル 改訂第 2 版の発刊

2015 年 12 月 1 日に『妊婦の糖代謝異常 診断・管理マニュアル』の初版を発刊しました。実地診療現場で使いやすいとの評価をいただいておりますが、新しい報告を盛り込み、英国の NICE ガイドライン、日本糖尿病学会の糖尿病診療ガイドライン（2016）等との整合性をとることを目的に改訂作業を行っています。杉山隆先生には上記ガイドラインとの相違点を検討いただき、それを踏まえ、副委員長をお願いしている杉山先生、守屋達美先生と私で、初版のマニュアルを全部読み直し、修正・追加いただく内容をピックアップし、改訂版の執筆者に送り、現在校正段階に入っています。私自身は委員長の責務として全原稿の査読をしています。どの項目も up-to-date な内容が盛り込まれ、非常によい改訂第 2 版ができると確信しています。今年の学会で販売しますので、是非お手元において活用いただきたいと思います。



海外関連学会開催日程

39th Annual Pregnancy Meeting

2019年2月11日（月）～16日（土）

会 場：アメリカ ラスベガス

Caesars Palace

公式ホームページ：<https://www.smfm.org/2019>

The 12th International Conference on Advanced Technologies & Treatment for Diabetes

2019年2月20日（水）～23日（土）

会 場：ドイツ ベルリン

Messe Berlin

公式ホームページ：<https://attd.kenes.com/2019#.W7G5Wmj7SUm>

The 10th International Symposium on Diabetes, Hypertension, Metabolic Syndrome and Pregnancy

2019年5月29日（水）～6月1日（土）

会 場：イタリア フィレンツェ

Firenze Fiera

公式ホームページ：<http://www.comtecmed.com/DIP/2019/default.aspx>

American Diabetes Association (ADA) 79th Scientific Sessions

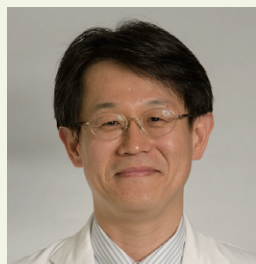
2019年6月7日（金）～11日（火）

会 場：アメリカ サンフランシスコ

Moscone Center

公式ホームページ：<https://www.emedevents.com/c/medical-conferences-2019/american-diabetes-association-ada>

トピックス



宮越 敬

慶應義塾大学医学部
産婦人科学教室

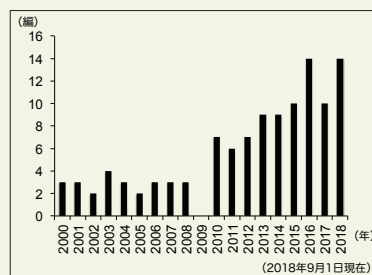
わが国からのエビデンス発信を目指して

診断基準改定を機に、国内外で妊娠糖尿病（GDM）の病態・管理について注目されてきた。いち早く新基準が採用されたことも影響し、産婦人科医師のGDMへの関心は高まり、日本産科婦人科学会および周産期・新生児医学会におけるGDM関連演題発表も増加傾向にある。今回、当大学メディアセンターの協力のもと英文学術誌におけるわが国からのGDM関連論文数を調べた。具体的には、MeSH “diabetes, gestational” および “gestational diabetes” のフレーズをキーワードとし、わが国から発表されたPubMed収録論文を検索したところ、2010年以降論文数が増加していることがわかった（図）。

掲載論文のテーマはGDM合併妊娠の臨床像・病態から産後ケアまで多岐にわたり、とくに最近では産後糖代謝異常に関する研究発表が多い。Kugishima et al. の検討では、GDM既往306例のフォローアップ（中央値、57週；範囲、7-292週）中の糖尿病発症率は10.5%、GDM診断時における75g

経口ブドウ糖負荷試験（OGTT）2時間値およびHbA1cがその予測因子であった（Kugishima et al. BMC Pregnancy and Childbirth, 18:19, 2018）。また、Kondo et al. はGDM既往123例中45例（36.6%）において産後8-12週時にOGTT異常（糖尿病型4例、境界型41例）を認めること、その発症予測にGDM診断時OGTTから算出したinsulinogenic index/fasting insulin（膵β細胞機能を反映するdisposition indexのひとつ）が有用であることを報告している（Kondo et al. Diabet. Med, 35:1111-1117, 2018）。

本学会事務局によると2017年度の正会員数は779名であり、2010年度より240名近く増加した。糖代謝異常の発症には人種および生活環境が関与する。現在、本学会を主軸とした「糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト（DREAMBee Study）」も進行中であり、今後日本人女性におけるエビデンスの集積および情報発信が期待される。



PubMedに収録された日本人研究者が筆頭著者の妊娠糖尿病関連学術論文数



田中 佳代

久留米大学医学部看護学科
母性看護学
久留米大学大学院医学研究科
修士課程 助産学分野

糖尿病と妊娠に関わる看護職者の動向

糖尿病と妊娠に関わる看護職者の関心は、妊娠糖尿病妊婦の増加もあり、高まりつつある。医中誌で「糖尿病」「妊娠」のキーワードで検索し、「看護」と「会議録」で絞込を行うと、2010年までは一桁であったが、2011年以降はバラツキはあるものの毎年20数件の会議録が抽出される。看護関連の原著に絞ると、ここ5カ年は年に5つ以上の文献が抽出され、まだわずかではあるが、会議録の増加からも看護職者のこの分野に対する調査・研究への更なる取り組みが期待される。

我が国における看護の教育は、大学化が急速に進み、1991年には11校であった看護系大学数は、2018年度は263校と著しく増加している。さらに、卒業後のスキルアップとしては、特定の看護分野で熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる認定看護師制度がある。糖尿病

関連では、糖尿病看護認定看護師が2002年より認定を開始し、890名を輩出している。現在、今後の社会ニーズへの対応を目指し新たな教育や役割の発展に向けて、認定看護師制度の再構築を日本看護協会が検討している。また、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族および集団への水準の高い看護ケアを提供できる専門看護師（CNS）は、大学院で学び資格を取得できる。糖尿病も包括する慢性疾患看護専門看護師は2004年より認定を開始し、169名を輩出している。助産師養成の教育は、大学院での教育が2004年に初めて天使大学で開始され、2017年4月時点で36校の大学院で助産師教育が行われている。全国助産師教育協議会では、現在、教育終了時の資質や能力の質保証のための助産師教育のモデル・コアカリキュラムの策定に取り組んでいる。この中には、妊娠糖尿病の助産診断とケアが明言されている。

このように看護界では高等教育化や、専門性の高い看護ケアを提供できるスペシャリストの養成が進んでいる。この現状を踏まえ、今後、糖尿病と妊娠に関わる調査・研究がすすみ、看護の体系化がなされていくものと考えている。本学会においては、この看護の動向をご支援いただき、糖尿病と妊娠に関わる医療・看護の向上に向けて共に歩んでいただければと切に願っている。



糖尿病と妊娠の分野の女王 Jovanovic 先生ご逝去

糖尿病があっても妊娠前、妊娠中の血糖正常化を守れば健康な児を分娩する事が出来るという強い姿勢でキャンペーンを張り、世界のリーダーシップを務めてこられた Lois Jovanovic 先生（1947～2018）が2018年9月18日、享年71でお亡くなりになられた。悲しいお知らせである。

先生はアメリカ糖尿病学会（ADA）の大切なメンバーであるとともに、ヨーロッパ糖尿病学会の Study Group の一つである Diabetic Pregnancy Study Group (DPSG) の名誉会員でもあったので、ご逝去のお知らせと哀悼の辞は、数え切れない程のメールで、「超偉大な指導者を失った」「巨星墜つ」といった表現で世界を駆け巡った。9月28日の The New York Times も「糖尿病女性が子供を持つ事を支援した Dr. Lois Jovanovic 死す」と長い報告を掲載している。

先生には多くの学歴があるが最終的に1973年、Albert Einstein College of Medicine で医学部を卒業され、以後、New York Hospital – Cornell University Medical College で研修を受け内分泌・代謝学の専門家として同大学助教授になられた。1986年に Santa

Barbara の Sansum Diabetes Research Institute に移られ、1996～2013年の17年間は所長として任務を全うされた。糖尿病と妊娠に関する先生の活動は、ADA の Norbert Freinkel Award でも理解出来るが、先生の書かれた論文は561篇、38回の受賞歴を持ち驚異的である。

2009年1月号 Diabetes Care の表紙になった Banting 先生宛の絵手紙は、先生のお祖母様が8歳の時書かれたものである。そのお祖母様が先生のお父上を生み、お父上も1型糖尿病であった。先生自身も第2子分娩時、糖尿病を発症した。第2子は重症脳性麻痺で3か月後に死亡している。こんな悲嘆のどん底の経験が、糖尿病を持つ人の為に尽くす使命感を不屈のものにしたと思われる。二人のお子様はご長男が産婦人科医、ご長女が内分泌・代謝医で糖尿病が有っても立派に子供が産める事を身をもって実証している。

糖尿病と妊娠に関する先生の業績は山より高く海より深い。詳しくは心からの追悼の意を込めて雑誌「糖尿病と妊娠 19 巻 1 号」に記載したのでお読み頂きたい。

本会名誉理事長 大森安恵記

受賞報告 — 杉山 隆先生ご受賞 —

タイトル:

Pre-pregnancy BMI is a better indicator of LGA infants compared with plasma glucose levels of a 75-g OGTT in early pregnancy in Japan: Taking into account changes of 75-g OGTT in pregnancy, Takashi Sugiyama, Yasue Omori, Yuji Hiramatsu

学会名: 50th Annual Meeting of Diabetic Pregnancy Study Group of EASD

日時: 9月27-30日

場所: Hotel Regent, Rome, Italy

賞の名称: 2018 John Stowers Poster Award